

JTSU-B申第1号

第5回定期大会発言に基づく労働条件・職場環境改善を求める申し入れ

趣旨説明をおこなう！その3

「最後に今般、信義誠実な協議会・交渉・苦情処理等をおこなうことと、
確認メモ・議事録確認締結にあたっての趣旨とこれまでの組合側の認識」

- (組合) 実のある議論は出来る。でも結論、結果が出し切れず、行動、改善に移れないことが多かった。そのような事が多々見受けられた。ではなぜ実行できないのかそういった議論も突き詰めいかなければ話だけで終わってしまう。スカニア車両の議事録を締結したところで、今般一部の支店が波動でドリーム便の運行を担うにあたって、そこでの取り決めがしっかり反映されていないように見受けられると伺っている。結局は話だけで行動に移せていないんだと感じてしまった。今でも指導用の座席としてパイプ椅子を持ち出して訓練を行っている話を聞いている。
- (会社) 全くスカニアを触ったことのない人に行かせるようなことはない。議事録確認や確認メモは双方の判子を持ち出して締結をし、協約・協定同様、効力を発揮するものである。それだけ重要だからこそどっちの認識でも捉えられるような、拡大縮小解釈できるものであってはならない。
- (組合) それは会社側が議事録確認案を打診の際にも、そういった姿勢があったことは間違いない。拡大縮小解釈出来るような曖昧な表現を使って作成し、結論をぼやかしているのはそれこそ会社側である。それぞれ信義誠実から逸れている。加えて、議事録確認を締結しても、現場管理者に周知もされていないことも課題としてあると我々は認識している。
- (会社) 会社としては堅苦しい型にはまった形式的なものだけで捉えていくのではなく、その都度の議論にあったものを結んでいくこと、認識が合えば議事を丸々確認ということにも抵抗がある訳では無い。
- (組合) 以前、会社側の委員を変更してもらいたいと組合側から指摘したことがあったが、それを核心で言ったのではない。会社の委員の皆さんで結論を出す、判断できる体制にってもらいたいということを分かってもらいたい。我々が求めているところはそこだ。これまでは総務ばかりが発言していた印象が強かったが、安全・営業といった各部の専門の委員がしっかり受け応えできる体制にってもらいたい。
- (会社) 了解。各部ごとよりこちらも委員を選出しているので、議論に合う受け応えが出来るようにする。
- (組合) 了解。申1号についてはこちら次回以降、より詳しく深く議論をしていく考えだ。



社員にも決断が求められる今の時代。

新たな時代を迎え、これからの社員を牽引するために、
会社にも決断力が求められる。